

ウータン

Printed on

Recycled Paper

〈HUTAN〉
森の通信

一部 200円
年会費 2,000円
郵便振替 大阪3-3880

SAVE OUR TROPICAL FORESTS

森と生活を考える会

〒530/大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館#308
Tel.06372-1561「自然を返せ/関西市民連合」事務所気付

第 23 号

1992年3月7日発行

森林伐採に反対する サラワクの先住民逮捕続出！



●自治体キャンペーン報告 大原が動いた！

Orangutan (*Pongo pygmaeus*), Sumatra

everybody 毎度 on The 熱帯林!

STAFF号振りーと

この月に出版をひかえています。

奥村 知恵子
Chiko Okumura

私の両親は昭和フアンズム期に教育を受け、大東亜共栄圏のイメージで私の名を「知恵子」と名付けたらしい。日本を中心にして繁栄する亜細亜のように知恵の広い子という意味だ。十八を過ぎた頃から、何の縁あつてかアジアや太平洋の人々に出会い、旅をする機会に恵まれてきた。

その中で大東亜共栄圏の思想がいかにアジア・太平洋の人々を苦しめたのかを、身をもって知るようになった。と同時に、心の故郷へ帰っていくような懐かしさを覚えていった。それは、幼い頃過ごした長屋の人情に似ている。親密な人間のつながり。おおらかな子育て。ゆったりと流れる時間。温かな生命が甦ってくるような思いがする。

「国際貢献」とか言って、アジアの人々をリードし、援助するなんてめっそも無い。これまで莫大な犠牲を強いて多くの人やモノを頂いてきたことに、まずきちんと償わなければと思う。

ウータン活動報告

2/25発行

- 9/11 29 ウータン豊中、初会合を持つ。
- 12/3 「カラバルソン計画で何」集会に参加。
- 12/10 東京都田無市議会、「サラワク材使用停止」を採択。
- 12/20 愛知県議会、「熱帯林保全意見書」採択。
- 12/27 豊中市、「熱帯林保護要望」の回答送付。
- 92/1/8 大阪市長、「熱帯木材使用削減案」表明。
- 1/14 ウータン、大阪市に対して削減の予算化、具体化等を計るよう要請。
- 1/15 ウータン、大阪府全自治体に「熱帯林保護についての要請書」発送。
- 1/22 京都府、「熱帯材使用削減案」を発表。
- 1/25 ⑤出前講座①堺市のゴミ研究団体で
- 1/27 泉南市、「熱帯林要請書」の回答送付。
- 1/29 門真市、「熱帯林要請書」の回答送付。
- 2/4 大阪府知事、「熱帯材削減案」表明。
- 2/6 枚方市、太子町、「要請書」回答送付。
- 2/9 熱帯林全国会議の準備会持つ。
- 2/11 サラワク住民が道路封鎖で大量逮捕。
- 2/13 箕面、高槻市、「要請書」回答送付。
- 2/15 全林野等「森がなくなる」シンポ催す。
- 2/19 ウータン、大阪府と話し合い。
- 2/17 富田林市、「要請書」回答送付。
- 2/18 美原町、「要請書」回答送付。
- 2/21 八尾市、「要請書」回答送付。
- 2/24 河内長野、吹田市、「要請書」回答送付。

HUTAN
No. 23

- 2 「毎度熱帯林」活動報告——
- 3 サラワク住民大量逮捕——
- 4 ウータンニュース——
- 5 自治体からウータン報告⑥大阪府
- 8 ウータン豊中通信——
- 9 今度はシベリアの森が危ない——
- 10 若い森に鞭打って「パリ会議」——
大西裕子
- 12 2/15 シンポ報告——
- 13 「カンタンに森はあらん」——
世原の森から④ 西岡良次
- 15 日本のはるかから④「熊野から」——
中村表明
- 16 インターメーション——
- 17 お便利コーナー——
- 18 ネットワークス⑤——
奈良熱帯林保護ネットワーク
- 19 ウータンフォトギャラリー——
藤P美和子
- 20 ステュールふしり⑥ 後記——

表紙 スマトラ島に住む
コマンウータンです。Pell

☆緊急アピール☆

サラワクの先住民、森の破壊に

抗議し、大量逮捕さる！

「抗議と救援の手紙をマレーシアへ！」

森と生活の破壊を止めるために、先住民は昨年より各地で道路封鎖を行っていた。だが、今年一月十一日よりサラワク警察と軍隊によって、不当逮捕された。

一月十一日、バラム川上流のアジャン地区では、二百人以上のプナン人が逮捕された。

またラジャン川の奥のロング・ゲン村のケニヤ人は十二、三日に四二名が逮捕された。

一月五日、来日もしたアンディ・ムタン氏は、ミリの町で国家保安法容疑で突然逮捕された。

森と生活を守ろうという先住民をサラワク州が弾圧をしている。抗議の声を！〔西岡〕

1992.2.15 (期日) 熱帯林伐採反対 大量に逮捕 マレーシア

マレーシアの環境保護団体「地球の友・マレーシア」が十三日夜、日本の市民団体、サラワク・キャンペーン委員会（竹内直一代表）に伝えてきたところによると、同国サラワク州（ボルネオ島）のウル・セラン地区で熱帯林の伐採に反対して道路の封鎖を続け、約半数は現地に残っているといふ。

六月の地球サミット（国連環境開発会議）で森林問題が規制されるのでは、と懸念するマレーシア政府は、四月に途上国関係会議を招集して善き返しを図ろうとしているが、それを前に伐採反対派の一斉逮捕に乗り出したと見られる。

以来、子供も含めたほとんどの住民が参加して、抗議の道路封鎖をしていた。これに対して武装警官が何度か警告を繰り返してきたが、住民らは封鎖を続け、十一日になって大量逮捕された。多すぎて一度に逮捕できなかったため、約半数は現地に残っているといふ。

「抗議、要求の声を送って下さいませんか！ ウェタンにありほろのぞご連絡下さい。今、市民1人1人の声が必要です。」

マレーシア大使館
大使 H. M. Khapib殿

私は1992年2月5日、サラワク州ミリ市におけるアンダーソン・ムタン・ウルド氏の予防拘禁について大変憂慮しています。また、ウルド氏をはじめとする森林伐採に抗議するサラワクの先住民たちが次々に逮捕、弾圧されていると伝えています。そこで、マレーシア大使を通じてマレーシア政府およびサラワク州政府に以下のことをお願いいたします。

1. 逮捕されているアンダーソン・ムタン・ウルド氏と現在身柄を拘束されているプナン人らサラワクの先住民たちを即刻釈放すること。
2. サラワク先住民たちの慣習的権利を尊重し、伐採に反対している場所での伐採免許を緊急に凍結し、今後地元の先住民たちの同意なしに伐採を許可しないこと。

氏名:

住所:

外務大臣 渡辺美智雄殿

私たちは1992年2月5日、マレーシア・サラワク州ミリにおけるアンダーソン・ムタン・ウルド氏の予防拘禁事件に憂慮しています。また、ウルド氏をはじめとする森林伐採に抗議するサラワクの先住民たちが次々に逮捕、弾圧されていると伝えています。1990年の第9回国際熱帯木材理事會ではサラワク州の伐採量削減の勧告がなされたにもかかわらず、1990年のサラワクの伐採量は史上最大の約1880万立法メートルでした。そして森林伐採反対者たちを逮捕することはITTOの言っている持続可能な森林管理にも背くことではないでしょうか。そこで外務省をはじめとする日本の関係省庁に以下のことをお願いいたします。

1. アンダーソン・ムタン・ウルド氏をはじめとする森林伐採に抗議するサラワクの先住民たちの逮捕についてマレーシア政府およびサラワク州政府に事情説明を求めること。
2. サラワク州が先住民たちの土地に対する権利を明確に認め、伐採量を大幅に削減するまでサラワク州からの木材輸入を緊急に一時停止すること。

氏名:

住所:

HUTAN NEWS

OSAKA 版

●「おぼろげ」プランに合議の出席
 20人も集った。記者が「おぼろげ」の記者が「おぼろげ」の時はおぼろげも集った。

建設工事のコンクリート型枠 熱帯材の使用削減へ

大阪市

42.1.9 M

大阪市は、市の指定する建築工事でコンクリート型枠（コンクリート型枠）として使われている熱帯材の使用量を削減する方針を発表し、熱帯材の乱伐に拍車をかけるこの批判に答えるため、今後アルミ型枠枠などを採用した工事を行い、建設費団体などにも協力を要請する。

昨年五月、姉妹都市の米國サンフランシスコ市長から、「熱帯材の使用抑制の条例制定」と呼び掛け、建設費団体と結び掛け、大阪府は「条例は無理」と返答したが、使用量削減対策について検討を続けている。

モテル工事として、住之江区南側に建設中の見本市会場「フンテックス大阪（仮称新六甲館）」を指定。建設は五階建てで、延べ約七千平方メートルの使用量は七万七千平方メートルのほかに、この六割にあたる四万三千五百平方メートルについて、

アルミや鋼鉄製の型枠に要する。さらに今後発注する建築工事の中から、モテル工事を指定する。友合板型枠の反復使用回数増加を図るため、設計上の配慮などについても検討を重ねる。

42.1.9 日

42.1.14 日



【熱帯材保護で自治体との懇談を進めたい】と話す市民グループ「ウータン」のメンバー。大阪府役所で

大阪府の場合

熱帯材使用 75%以上削減

発注建築工事
大阪府が方針

大阪府の中川和雄知事は四日、三月から府発注の建築工事でコンクリート型枠に使用される熱帯材の使用量を削減する方針を明らかにした。府建設部によると、熱帯材は大阪府発注の工事で約四千立方メートルを消費しているが、従来は敷設で使ったため、府は針葉樹を減らした。府は針葉樹を減らした。府は針葉樹を減らした。

42.2.4 日

市民団体 熱帯材保護の要望書 市の使用抑制には評価

地域環境を守ると、大規模の開発を促進し、個別に懇談を求める。大阪府は西尾市長が八日、熱帯材削減の要望書を送り、個別に懇談を進めたいと話す市民グループ「ウータン」のメンバー。大阪府役所で

地域環境を守ると、大規模の開発を促進し、個別に懇談を求める。大阪府は西尾市長が八日、熱帯材削減の要望書を送り、個別に懇談を進めたいと話す市民グループ「ウータン」のメンバー。大阪府役所で

熱帯雨林保全 府に要望

市民団体

熱帯雨林の保全を訴える市民団体の「ウータン・森と生活を考える会」（本部・大阪市北区）は十九日、中川和雄知事に熱帯材の使用を求め、約千八百人の署名を提出、熱帯材の使用削減を促進する施策をとるよう求めた。それによれば、日本では約百四十万立方メートルの熱帯材の使用削減への予算の具体化▽自治体・業者への指導仕様書の作成▽などを要望している。

自治体の依頼に、①熱帯材削減の要望書を送り、個別に懇談を進めたいと話す市民グループ「ウータン」のメンバー。大阪府役所で

42.2.4 日

【大阪市】



FROM OSAKA.

経済週刊

6

報告・永田 健一

Kenta Nin

◎ 大阪が重たいオシりをやっつとあげ……

既に皆さんも新聞などで知ってほると思いますが、今年に入っ
て大阪で動きがありました。私たちが「ウータン」のメンバー誰も
がその日の新聞で始めて知ったという大阪市の熱帯木材削減表明
(1/8付)がそれを示す。「ええっ、ほんまかいな」と喜びと驚きの

いりまじった心を抑え、西岡さんと大西弁護士にTEIを入れ、詳し
い事情を聞いたが、この時卓では詳細わからず。それよりも皆
異口同音に「あの大阪市の動きは、一言ぐらい連絡入れろよ。」
腹立つなあ。」とが言うようになりました。それと言うのも前回(9月)

大阪市のこの談では「それは出来ない。むずかしい。この談
は1団体1年に1.5%、今年は終わり。」といった何ともオソマツな
ものでした。私たちがこう思うのも当然で、しゃろ、皆さん、

さて、大阪名物ボヤキはこの辺にして、大阪市の削減内容が
が、まず地球環境の保全の面から、熱帯木材の使用抑制の必要性を
唱えながらも、代替品(針葉樹復合合板)の汎用化及び調査研究
に時間が必要であると前置きし、当面の市の対応策として

① モデル工事の実施

「インテックス大阪・新6号館建設工事
の地下部分型枠工事において、ブロック、マルミ、鋼製型枠を
使用し、熱帯木材を60%削減する。」さらに今後も発注する

工事の中からモデル工事を選定していき熱帯木材を用いない型
枠の工法や施工上の問題を検討する。

◎ 大阪市住み区南港にある見本市会場

② 関係業界団体への協力を要請する。

③ 型枠の回復使用回数増加を図る。又、PC工法などの
利用促進のための設計上の配慮を行なう。

④ 合板型枠の使用量実態を把握、技術開発などを行なう。
といったものでした。

動きとしては、たしひに一歩前進のように見えるが、その内
容には問題点が少なくない。そこで「ウータン」は1月14日

に大阪市記者クラブにおいて記者会見を行ったのです。(前P参)
(2ページ以下にやろな。と思っただうも入ほど来てくれました……)

▼ウータン側▲

① 熱帯材保全のための予算がない状態。今後どうやって結
けていくんぞっか? 又、窓口となる関係部局会議はどう
なってるねん。早よ作ってんか!

② コンパネの回復回数増加を図るんやろ。具体的数字が入れ
んぞ……

③ 関係業界への協力要請について名古屋市のように早急に文
書にして送ってんか。

④ モデル工事の60%削減は低いぞ、モデル工事とイベル
ンカッたら100%にしてちょうだい。

⑤ 木材使用から廃棄についてのリサイクル、減量の検討はど
ないやねん。最後に一年に1.5%と言わんと何んも
話し合いをしていな。

てな事を文書でその日に再度西尾市長宛に要請しました。

・後日談：西岡氏勘違いして大阪市の削減率をまちがえ、
電話で訂正してもうつ。大阪らしいじゃありませんか!

【大阪府】

◎ もつと、ローカルに！

1月15日、更に私には、東京の田無市の例を踏まえて大阪府下43市町村に「熱帯林保護」についての要望書を送付し、その回答を求めました。 あんまり期待はしなかつたけれど（アキ下の件もあるし）。まず、1/17に泉南市、1/29に直真市、2/6枚方市、太子町をはじめとして箕面市、高槻市、富田林市、河内長野市、八尾市、吹田市、美原町、昨年暮に回答をもらっている豊中市を含めると12通がかえってきました。

皆さんの市は、ここに入っていますか？ 詳細は紙面の都合で書けないので、自分の市の回答を知りたい方はご連絡下さい。

といっても、そうたいした内容でもござんせんが……。
「さつといたしますと、大体「地球環境保全のためにその必要を感じており自治体として今後前向きに検討していきたい。」「リサイクルはやっている、今後も続ける。」と感触はええんやが、これといった具体策はそのどれをとってもありませんでした。そこで回答のあ、たに市に、そのおれとこん談の申し入れをしました。「具体的な話が向きたいので時間をとって下さい。」とお頼いしても、今は忙しいので会えない。遠慮したい。」(私)「じゃ、いつかたづかひてくれるのか？」と市「いつとは言えない。検討します。」という感じ。土書だけを出せばそれで済むと思ってるんかなーと、なまじけなくなるわい。ほいほい。

◎ 今度は、大阪府じゃ！

さて、さうこうしてる間に今度は大阪府が「熱帯木材使用削減策を表明しました。(2/4 NEWS参照)

これは、西尾大阪市長と中川大阪府知事の新園の中での会談の

後、即表明されたのです。大阪府策よりも削減率が高く(75%→81%)、モデル工事も2ヶ所であった。

◎ なんやえらい元氣やなあ！

さつと西岡氏が菅繕の更之氏に、こん談の申し入れをし次回2/19と決まる。天気はええがその

分冷えこんだ当日、西岡、永田、そしておなかの大きい興村は午後1時半のこん談に少々おくれしてしまう。(失礼いたしました)おまけに「出席するが少しおくれる。」と聞いていた大西弁護士がもう席についておられた。「おそいなあ〜。」という大西さんに、ペコリ。(つものこと……)

大阪府の出席者は、建設部管繕室からこの向の窓口というベキ更之氏、伊藤氏、野口氏を中心に企業局空港推進課2名、土本部2名、水道部2名、緑の環境整備室2名である。府側の顔ぶれも大きく入れ変り、菅繕の更之氏だけがおなじみで、他は全て新顔、お役所ならではといったところ。

タイムリミットはる時まで、さつとく話に入る。



▲大阪府 建設部 管繕室の面々 石から伊藤、更之、野口の各氏

府側も今まで違って、スライ元気がいい。まず計画グループの伊藤氏より建設部の削減策(左表)の説明が行われた。

内容は(左表)のようなことだが、実施にあたっては、PC工法と針葉樹複合合板をやるというのが府の2つの大きな柱である。

モデル工事は現在2つだが今後ふやしていくが今のところ他

は考えていない。府下市町村や関係業界などへの協力要請の文書化、仕様書もまだ工事の推移を見た上でやる。というようだった。昨年コンパネ使用量を聞いたところ、建設部の平成2年度の使用量は約4000m³(ラワン材19万枚、原木600本に当たる)と

言明、ちなみに平成3年は原木44本ぐらいになるだろう(という)と更工氏が答えた。そこですかさず大西さん「あまたの言うように仮にサワワクの森1haで4005本とれたとして、120haの森が破壊されたことになるんですよ。これは大きいです。」とグサツシ(とまたがは知りませんか……)

ここで間違っではいけないのは、4000m³という数字は、あくまで製品になった合板の数で原木の100%が合板になった訳ではありません。今の日本の合板加工技術で最高級材を使っただとしても原木からの歩留まりは70%ぐらいになるそうです。現在のサワワクの原木はそんなに良くはなく仮に歩留まり70%としても、4000m³の合板をつくるには57000m³の原木がいることになりました。

〔建設部〕

熱帯木材の使用抑制に関する基本方針の策定及びモデル工事の実施について
— 婦人総合センター 新築工事ほか —

1、基本方針

- (1) 大阪府発注の建築工事におけるコンクリート型枠工事について、モデル工事における技術的課題や、熱帯木材需給の動向を勘案して、針葉樹複合合板の採用等により、出来るだけ早急に、熱帯木材を現在より75%以上、使用抑制することを目標とする。
- (2) 合板型枠以外(金属メッシュ等)の型枠使用や、プレキャストコンクリート等の工場生産品の活用により、熱帯木材合板型枠の使用を削減する。
- (3) 大阪府下市町村や他の事業主体にも、熱帯木材合板型枠の使用抑制や合板型枠を使用しない工法の推進を呼びかける。
- (4) 建設業界団体に対しても、熱帯木材合板型枠の使用抑制や合板型枠を使用しない工法の推進を呼びかける。
- (5) 日本合板工業組合連合会等、生産関係団体にも協力を求め、代替品の生産体制の安定化を図る。

2、具体的対策

- (1) 熱帯木材合板にかわる針葉樹複合合板型枠(中芯に針葉樹75%、表面に熱帯木材25%を使用)の使用を促進する。
- (2) 塗装合板を使用することにより、熱帯木材合板型枠の転回数を増やす。
- (3) 針葉樹のみの合板がコンクリート型枠として使用可能かどうかについて検討をすすめる。
- (4) 合板以外の型枠の使用を図る。
・捨て型枠の使用(ラス型枠、デッキプレート型枠)(地中梁、基礎、屋根、床への使用)
- (5) 建設現場での型枠を用いない工法を採用する。
・工場製品のプレキャストコンクリート部材の使用(バルコニー、階段等)
- (6) 内装材としてのラワン材(熱帯木材)の使用抑制を促進する。

3、モデル工事の実施(平成3年度)

- (1) 大阪府婦人総合センター(仮称)新築工事
・針葉樹複合合板型枠を採用して、熱帯木材の使用を75%削減する。
- (2) 大阪府宮門真四宮住宅(建て替え)新築工事
・下記の工法で、熱帯木材の使用を約81%削減する。
 - 1) 基礎及び地中梁において、捨て型枠工法を採用する。
 - 2) 階段、バルコニーにおいて、工場製品のプレキャストコンクリートを用い、現場での型枠工事を不要とする。
 - 3) 屋根版において、捨て型枠工法を採用する。
 - 4) その他の型枠についても、針葉樹複合合板型枠を採用する。

又、1haに同じ木さの樹がある訳じゃないのに、4005本という計算は全く根拠がなく、こんな時には1本の樹のm³をどれくらいにしているのかを相手に「こみ揚げ足をとること。ご注意、」
「徳島熱帯林問題研究所 猪俣栄一さん談」
ちなみに猪俣さんの計算では、大阪府建設部だけで少なくとも160haの森が破壊されたとみるべきと言っていました。

コストは今のままでも、4000m³の合板をつくるには57000m³の原木がいることになりました。

大阪府建設部の4000万円は、京都府の発表した平成3年度の合板使用量20000立方メートル(これも実際は40000立方メートル)に比べて、はるかに多いのです。他の部局はというと、年間工事約4000件のうち合板使用は3000件という土木部は使用量を現在調査中、建設部に比べ工事に木製・鋼製を使うのが現場で自由とされているため調査がおくれているらしい。水道部も土木とよく似ているが量が小さい。又この日建設部に「地球環境と共にする建築技術検討費」として300万円の予算が出た。(おぼろげ)

この予算は、総合試験場への調査依頼料などとして使われるというのだ。他の部局は地球環境保全に關しての予算要求はとくにしていまいということだった。

私たちの再度の要望に對して、「とにかく、ちやんとこんなもんが出てみたら、これがやり始めまんねん」と息子をは紙をふりふり言いはりました。最後は、モデル工事の見学をいけてもらうこと、今後そんな話を続けていくことを確認しました。

他にも色々あるんですが、ギリギリがなさそうなのでこの辺にとさますが、90年の暮れから約1年ちよいと、ここまでののを良しとするが、悪しとするが、なんとびくつかれてしまいました。ちょっとこの重たいおいごを上げて歩きだそうとする大阪を又、可憐なけんゆうにせんとおきまへんわー。

まだまだ先は長きです。

皆さん、どうぞ応援して下さい。そは又。

[ウータン豊中] 不定期通信・その2 92. 1/27

～めちゃくちゃもりあがってしまいました～

●大阪で一番早く、要望書の回答をもらった豊中市をびんばって
いる井下祥子さんの通信です。(ウータン)

今回は、前回出席されたKさん、Sさんに、ウータンのTさん、考え行動する会・テラ」のFさんなど7人が、わいわいがやがや、9時までのつもりが、つい9時半に……。

Fさんは主婦のワーカーで、市内のスーパリーヤ在阪の百貨店に「エコマーク」簿書きへの配慮」などについてアンケートをし、「お買物がイデ」を作った。(1部400円、福谷さん4000円まで) 次は再生可能な製品を作る企業の調査をしたいとか。

Oさんはオーストラリアの自然の中でサバイバルを教える学校にいた。今はエイブ・ザ・キルドレンにかがわっている。産名高い日本の長時間労働にあげず意識改定。「十代の若者をいかに育てるか。」

Tさんからは「熱帯林の保護団体の全国会議を5月に大阪をらうくのを協力よろしく。」

Sさん「教師を雇って子供たちに知ってもらうために環境問題の本のリストをつくってほしい。」

Kさん「教会の子供たちの集まりで熱帯林の話をしてみては？」
実を言えば、熱帯林を守るために豊中市にどう働きかけるか。「なんて全くと論じなりました。でも、めっちゃおもしろかったな〜。」

*豊中市より「熱帯林を使わないで」という要望書に丁寧な回答、「ウータン・豊中」「ウータン」の進名をお礼状を、前回出席のDさんが、市役所に持って行って下さいました。大阪府、京都市では熱帯材不使用にかかり前進がありました。

ブラジルの環境会議までのブームに終わらせないう、ほんもの「地球にやさしい暮らし」を作ってくださいです。

今度は、

シベリアの森が危ない!



昨年後半から今年にかけて各地の自治体で、あいついで熱帯木材の使用削減の方針が出された。自治体の打ち出した削減案に大きなウエイトを占めるのが、「コンクリート型枠を複合合板に転換する」というものだ。複合合板は、これまで全部熱帯木材から作られていた合板を、表面はそのまま、内部を針葉樹材に変えたもので、これによって熱帯材の使用量を三分の一減らせるという。現在、日本で使われている針葉樹材は、北米産が多いが、一部は旧ソ連のシベリア、極東地域から輸入されている。東南アジアの熱帯材がほとんど伐り尽くされてしまった今、木材企業の目は確実に、豊かな森林資源を持つ旧ソ連のシベリア、極東地域に向けられている。「今度は、シベリアの森が危ない!」そんな思いを抱いていたところ、さっそく参加した。

報告者は、サージ・グリェンシュコフさん。京都のJIE(日本環境保護国際交流会)の創設メンバーの一人で、現在はカリフォルニア大学パークレイ校の大学院に籍を置きながら、太平洋エネルギー資源センター(ENRC)のシベリア研究プロジェクトに参加。昨年夏には、バイカル湖周辺の激性雨の調査に同行し、シベリアの森の現状をみてきた。旧ソ連のシベリア、極東地域は、650万平方キロの膨大な面積を有し、北のツンドラ、南の乾燥地帯にはさまれて、広大な森林地帯が広がっている。特にシベリアの森林を代表するのは、タイガと呼ばれる針葉樹林だ。ここには、クマ、オオカミ、シマウカロウなどたくさる動物が生息している。また、その南に位置する混交林には、シベリアアイガーが生息している、といったように豊かな自然環境が、まだまだ手つかずのまま残されている。また、シベリアには、ヤクート、ブリヤートなどの先住民が、伝統的な文化を残しながら生活している。シベリアの開発は、西の方から始まった。マツ スプルースを中心とする林業は、いまでもシベリアの主要な産業のひとつになっている。シベリアの針葉樹林は、いったん破壊されると、カンパ類などの広葉樹林に変わり、それまでの生態系は破壊されてしまう。ただこれまで、交通手段の不備(永久凍土帯のため鉄道が通せない)のおかげで大規模な破壊の手にはさらされてこなかった。

しかし、旧ソ連が市場経済に移行しようとして経済混乱を極める今、日本、そして韓国の企業が東の方から、シベリアの豊かな天然資源を開発しようとして狙っている。シベリアの属するロシア共和国の環境庁は、力も財源も不足している。民主制度が十分発達していないので、住民によるチェックも難しい。しかも、一般の人々の関心は、目の前の食

料と仕事の確保に向けられている。そんなところに大規模な資本が進出して開発を行えば、一挙に自然破壊が進む恐れがある。資本主義化の中で、先住民の生活も脅かされるだろう。そこで、シベリアを第二のサラワクにしないように、今のうちから森を守る運動を起こそうということだ。JIEが中心になってネットワークを発足させた。まずは新聞、雑誌などで日本企業の動きをチェックし、それを英訳してPERCに送るところから活動を始め。現在、この仕事のためのボランティアを募集中。特に、シベリア、旧ソ連、ロシア語、英語、あるいは林業の知識のある人は大歓迎ということだ。

今後ウータンとしても、何らかの形でシベリアの森林問題に関わっていきたくと思っています。

(文責:辻村)

ネットワークの連絡先
 TEL 0727(21)1024 高橋純平
 TEL 0720(67)3597 ポーラ
 または、ウータン 辻村(TEL 06(792)5232)まで

シベリア
木材事業で経済協力
 初めてロシア共和国と

シベリアの木材資源は、日本にとって重要なものである。日本は、シベリアの木材資源を積極的に活用し、経済協力を進めようとしている。これは、日本とシベリアの友好関係を深め、両国の経済発展に貢献する重要なステップである。

シベリア森林資源開発
日ソ交渉が最終決着
来年1月から計画実行

シベリアの森林資源は、日本にとって重要なものである。日本は、シベリアの木材資源を積極的に活用し、経済協力を進めようとしている。これは、日本とシベリアの友好関係を深め、両国の経済発展に貢献する重要なステップである。

ソ連、原木輸出で譲歩
 シベリア 600万立方メートルを提案

統制品



辛い身に鞭打って

NGO・パリ会議参加顛末記

弁護士

大面裕子

Hiroko Ohtsuki



「ヨレヨレの旅立ち」

「こんな一年中で一番忙しい時期によう出かけられるなあ。」と羨望の混じった同業者の声をしりぬに、昨年二月五日、私の乗った大韓航空機は、とりあえずソウル金浦空港にむけてTAKKE OFF。

今年六月、リオデジャネイロで開催されるいわゆる地球サミット（環境と開発に関する国連会議）に向けたNGO会議の準備のための会議が、一月一七日から四日間パリで開催されそれに出席するのが目的。もともと、会議終了後パリで初めてのクリスマスイブを過ごそうとの、秘めたる企み、を持って会議への出席を決めた私ではあったが、そのもろみはとうに諸般の事情によって打ち砕かれ帰りのチケットには、一月二三日パリ発のフライト便名が記されていた。

弁護士稼業一五年間、こんな時期に海外に出るのは、独身貴族の名をほしのままにしている私にとっても初めての経験で出発前二週間の多忙さは予想外で、自業自得とはいえず身もたつかれ果てていた。

「ラ・ヴィレットってパリのどこ？」

パリ会議はフランス政府の財政援助のもとで、NGO国際運営委員会が企画し、事務局はELCI（国際環境連絡センター）が担当した。日本ではCASA（地球環境と大気汚染を考える全国市民会議）が今回日本の窓口となった。旅費と滞在費をフランス政府が支給する正式招待者約一〇〇〇名は事務局が各国に割り当て、日本へは一二名が割り当てられた。その一二名をCASAが割り振って日弁連にも一名の割り当てがあった。

そして最終的にはJATANの黒田さんや、地球の友の亀井さんが別枠で招待されたので日本からの正式招待者数は合計一四人となった。日弁連の一名の枠は、担当部会の部会長のN弁護士が使うことになったので、東京のK弁護士と私は自費でのオブザーバー参加ということになった。

ところで、会議の開かれるラ・ヴィレットってこれまで一回も聞いたことないけど、いったいパリのどのへんにあるの？

「パリ会議のプログラム」

ラ・ヴィレットという場所は、古い観光ガイドブックにはまったく載っていない新しい地域である。パリの北東部にあり、もとは屠殺場であったところを、再開発で産業科学シティに変身させた。

会議のプログラムを紹介すると、だいたい午前中が全体会議で、午後にはいろいろなワークショップにわかれて議論がなされる。

全体会議のテーマは、①貧困と環境、②倫理・価値と消費のパターン、③多様性が豊かさである、で最終日二〇日の全体会議では、「AJENDA YA WAMANCHI」（これは、スワヒリ語で「市民の行動計画」の意味である）が、

もろもろの議論を経て採択される（この内容については後述）。日本からのオブザーバーは、私とK弁護士以外にも七人が参加したが会議場には、正式招待者であることを示す、ネームプレートがないと入れないことが多くNGO会議らしからぬ厳格さであった。それで私たちオブザーバーは、多少のテクニクを使って潜り込まなければならなかった

ワークショップの数も多く、居住環境、森林、海洋と沿岸地域、資金と技術移転、地球憲章、アジェンダ21、砂漠と準乾燥地、国際貿易、GATT、とどれでも選んで出て、言いたいことが言えることになっている。

「ミッテラン大統領のあいさつ」
パリについて二日目すなわち会議の初日から私の体調は下降の一途をたどった。下痢は止まらず、身体もだるい。しかし正式な招待者でないにしろ、このままホテルで寝込んでいたのでは、帰国してから「いったい何しに行ったんや」の声に始まり、いかなる非難を浴びるかと思うと寝てもいられず、とにかく会場に向かった。

ミッテランは、現在のいわゆる南北の対立状況を指摘し、この解決にはNGOの力が必要で、この会議に期待するものは大きいといった趣旨の挨拶をなかなか格好よく行った。しかし私の頭の中はモヤがかかったみたいに内容の整理がつかない。

「あたりとチョコレート」
そして二日目。この日はこれといって出たワークショップもなかったので、K弁護士に「体調が悪いので先に帰るが、夜ホテルに

戻ったら、念の為に私の部屋まで電話を入れて欲しい」と頼んで早々とホテルに戻った。

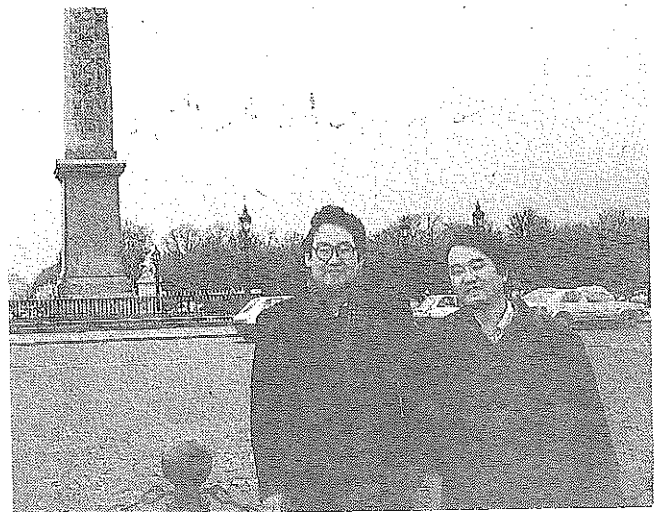
セーターを着てマフラーを巻いてベッドにもぐりこんだものの、葛根湯の薬効はなかなかあらわれない。何時間かの間に下痢と発汗で喉がかららなくなった。K弁護士から電話が入ったら、脱水症状の改善のためミネラルウォーターと何か温かい飲み物を買ってきてもらおう。でも、ついに電話のベルは鳴らなかつた。

こうしてK弁護士は私の信頼を永遠に失なうところであった。しかしまもなく、彼もひどい風邪をひき、大西さんの「あたり」の恐ろしさを知り、何とかこのあたりを懐柔しようとして、ベルギーで高価なチョコレートを仕入れて私にうやうやしく献上したのである。

「AJENDA YA WANANGHI」

会議の最終日採択された行動計画、AJENDA YA WANANGHIの内容は、極めて多岐にわたっており、私を含めて関西から出席した何人かのメンバーで翻訳したものが近々でき上がる。

構成は、前文、私たち自身のコミットメント（責任を持つて関与すること）、諸政府に対するアピール、私企業への要請の四部分



▲コンコルド広場のobeliskの前でパリに来た慰問団を呼ぶ
K 弁護士と 黒田氏 (JATAN)

からなる。前文では、地球環境の危機をもたらした原因として、これまでの統治、市場、軍事の各システムが誤っていたこと、文化的多様性や女性の軽視などを指摘し、「北」の繁栄が「南」における環境破壊や、社会崩壊の要因となっていると言いつつ切っている。私達自身のコミットメントの柱としては、国内外を問わず、情報交換を含む共同行動が必要であること、世銀や輸銀などの国際金融機

関への市民の参加の制度が確立されるべきこと、多くの環境問題について、国際的にレポートが作成され、これについて学際的協力がなされること、あらゆる活動について女性の参加の保障がなされること、などがあげられた。

諸政府へのアピールでは、参加手続きの保障された民主主義の促進、国際人権規約で明確にされた人権を実行性あらしめるための国際法の確立、軍事費を半減して、それを貧困の撲滅や環境保全のための施策にまわすことなど二〇項目にのぼる。

最後の私企業へのアピールでは、現在、すでに危うくなっている生態系への負担を増加させるような製品やサービスの生産、開発を抑制するよう要請している。

これらの項目のいずれもが、「北」の諸国あるいは「南」の諸国において、その実現について論議を呼びそうなものばかりである。

環境の破壊が、政治、経済、文化など人間の諸活動の全域と密接に関わり合っていることがよくわかる反面、解決への道の困難さを思い知らされる。

(DZ)

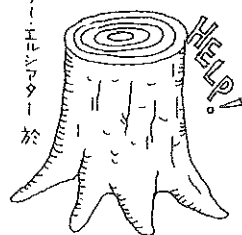
REPORT

2/15

シンポ*森がなくなる!

「守ろう暮らしと地球環境」

*府立労働センター・エレシッター於



二月一五日「森がなくなる!」シンポが、自然と緑を守る府民会議、連合大阪等によって催された。

最初に府知事、大阪市長のメッセージ代読として浦西副知事、坂口助役が発言。副知事は「熱帯林が破壊されたのは、乱伐、木材供給のためとの指摘がありました。府は今年から公共事業の発注に熱帯木材使用削減のため、モデル工事を計画しました」と。また、大阪市助役も「建設工事に熱帯木材使用削減とコンパネ型枠を出来るだけ使わない方法を検討します」とPR。

基調講演の大石武一元環境庁長官は「世界の三大美林のアマゾン、東南アジア、西アフリカの熱帯林が破壊の危機だ。多くの生物だけでなく、人自身も危い。政治や社会を変えねばなりません」と指摘。「サラワクの有力者の妻が、日本で何億というダイヤを買っていった。彼らはぜいたくな暮らしをしており、一方で業者は日本などと組んで木材を安く売っている。今、経済成長のためのむだ使いを止めねばならない」と。

また、国民森林会議の田村氏は「国内の一四〇万haの間伐林を利用出来ないか」と提案。建築家の有村氏は、コンパネを使わない建築例を話す。最後に、このシンポジウムで山倉市大助教授が伐採の功罪を語らず、弾圧を受けている先住民の人権は開発途上では止むなし、というニュアンスで発言したことが残念だった。

(文責・西岡)

世界の森から④——インドネシア・カリマンタン島——

Report カリマンタンに森はあらへん!

西岡良夫

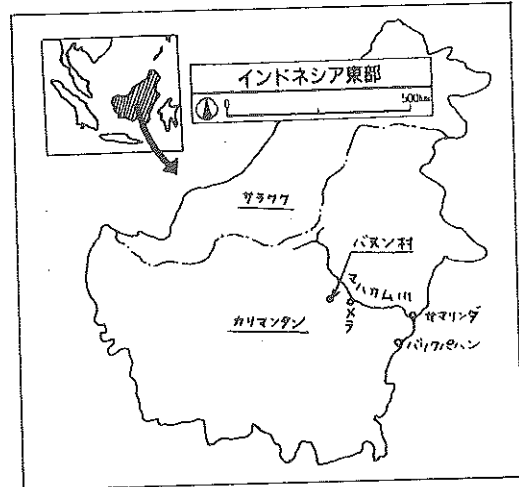
Yoshio Nishoka

マレーシア・ボルネオ島の南側、インドネシア・カリマンタン島。このカリマンタンは、サバ、サラワク州の約三倍の大きさをもつ。サラワク州に何度も足を運んでいるので、今度はカリマンタン島に行こうと、私達は昨年春に計画した。メンバーは奥村、原田さん、弁護士の大西さん、そして西岡。僕にとっては、アマゾンに次いで赤道を越えるのだ。

インドネシア、この国に大航海時代以降、ヨーロッパ諸国が香料に目を着けて、オランダが東インド会社を一九〇二年に設立する。オランダは、ジャワ島などで水田耕作をしていた農民にサトウキビ、コーヒールなど強制的に栽培させた。連作に次ぐ連作で土は荒れて飢餓が発生し、人々は各地で一揆を起こしたという。それに対してカリマンタンは、手つかずのまま原生林を残した。しかし、戦後にインドネシアが独立した後、スマトラ島、カリマンタンなどは日本、アメリカの伐採企業が森を次々と薙ぎ倒していった。そして今、この島はジャワ、バリ島から多くの移民がやって来て、このトランス・イミグレーションで大きく変わった。

* 森の破壊

八月一六日、名古屋からバリを経てジャカルタへ。一八日、ジャカルタからバリクパパン、そしてサマリンドでJATANAのメンバー、インドネシアの保護団体SKEPPIの仲間と合流する。



* カリマンタンの森の破壊*

: 伐採による破壊	1100万ha
: トランス・イミグレーション	225万ha
: 1982-83年の大火災で	360万ha

バリクパパンからサマリンド上空を飛ぶ。「どないなってるんや、森があらへん。サラワクよりずっとない」みんなが異口同音に叫ぶ。残されたのはブキット・スハルトの森だけで、見事に失われた森! 奥地や中流域も森がないのだろうか。

サマリンドの宿でSKEPPI(スケピー)らの仲間に話を聞く。「特に一九七九年頃まで大規模な伐採がされた。そして原生林の土壌を知らない人々が入って、土地は荒廃した。カリマンタンでは、既に森の面積の八割近く伐採権が与えられ、七〇年代から急激に伐採が進んだんだ。世界銀行の融資でトランス・イミグレーションも急増した。日本も三八億円融資した。それで森がなくなった。」

なぜこんなになったのか? 移民より伐採が原因なのか。インドネシアでは初めに、ある程度先住民の権利を認めていたが、外国の伐採企業の要請で一九六七年に憲法に基づいて森林法

を定めた。憲法三三条では、土地、森、空は全て国のものと定められているのだ。だから、どんな伐採がされ、ひどい例では墓や空港の敷地まで伐採権が与えられた。まともな管理もない。

八〇年まで先住民が植えたラタンは彼らのものだったが、商業が拡大して、伐採会社は許可された地域の先住民が植えたラタンまで我ものとした。先住民は土地所有の権利を知らないから、国の政策に太刀打ち出来ない。」と、スケピートのダニー氏が言う。

私達はカリマンタンの奥地へ行きかけたが、日程の都合で諦め、少し先住民が住むマハカム川中流域へ行くことにした。奥地はJATANのメンバーにまかせて。

＊バヌンの村で

スピード・ボートをチャーターして、マハカム川を遡る。サラワクのバラム川のように濁りが無い。伐採し尽くしたのか、と悪い思いがよぎる。何しろ森が無く、畑ばかりだから。行けども行けども同じ風景が続く、七時間で中流域のメラという村に着く。ここから陸路で一時間かけて行けば、めざすバヌン村だ。

私達が突然バヌン村に行ったこともあって、村人はきよとんとしている。その夜、ロングハウスに住む村人から話を聞くが、ある人はテレビにかじりついたり、ある人は居眠りをしている。

「伐採で森が減った。次に来たのはトランス・イミグレーションの人。そして八三年の大火事で辺りの森がなくなっちゃった」と。

次の日、長老に連れてもらい、残された森に行く。灌木が生えているが、なかなか森が見えない。脇の畑では、雨期を迎えて焼畑をする煙がたなびく。小さな畑で四種類しか野菜、穀物を植えないという。サラワク州だったら何十種類も植えるのだが……。最近、森が減ったので彼らの焼畑地も小さくなったらしい。最近二三年くらい同じ土地で焼畑をせねばならないそうだ。

一時間以上歩いて、やっと森にであった。近くにはもう原生林

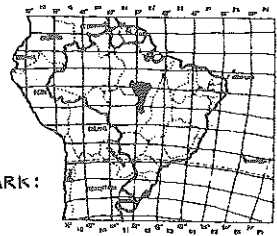
1 km²あたり約2,800円で、アマゾンの森が守れます

実現！ シングー国立公園の境界線画定

THE FIGHT FOR THE AMAZON



XINGU NATIONAL PARK:
180000 km²



『今回のコーロル大統領の勇気ある歴史的決断は、ヤノマミ族やラオニ族長率いる一族の勝利に留まらず、人権や環境を憂慮する全ての人々の勝利です。ブラジルは世界に手本を示しました。この決定が実を結ぶよう、今後も私達は協力を惜しみません』(スィグ/91.11.26.) アマゾンの森を守りたい……。加速する熱帯林の破壊を実際に食い止める方法はあるのだろうか。生態系に適応しつつ5千年以上も生きてきた先住者=森の番人と、それを取り巻く森自体の生存の道を探索してきた。一日も早く、領土画定のため境界線を明確にする必要があった。なぜなら、慣習的に暮らしていた彼等が『法的な土地の権利』を持っていないという理由で侵入、乱獲、乱伐が罰せられることなく見過ごされてきたからだ。

’89年のラオニ族長やスティング連の15ヵ国に及ぶツアーはぎりぎりの状態を訴えた。以来、国際的な運動として盛り上がり、とうとう30年越しの夢は実現した。まずは国立公園の形を取ることで、日本の1/2の広さで地球で最も豊かな生態系をもつ地域と先住者の人権、伝統文化の保護が可能になった。この大きな一歩に続き、天然/遺伝子資源の維持及び保護、基本的教育/医療体制作りや諸権利の保障など多くの作業と課題、資金集めが待っている。地球の真側からも応援しよう！

がないという。みんな一休みして空を見上げる。樹々は確かに多様だが、空が大きく開いている。長老は「森が一〇ヘクタールしか残されていない。森はなくなっちゃった」とぼつりと言う。

バヌン村以外でも近くにもう森が無いのだ。彼らの森が切られ、帰りの道を見るとトランス・イミグレーションや伐採地が、そして焼きただれた不毛の地が、スハルト家族の巨大な伐採会社が、僕の眼に焼き付いて離れない。禿山だらけのカリマンタン。誰の森だったのか。森が消えることを諦めるのか。

日本の森から①

連続
2回

熊野から

その2

中村 義明
Yoshinaka Naokamura

● 山で働く想い…… ●

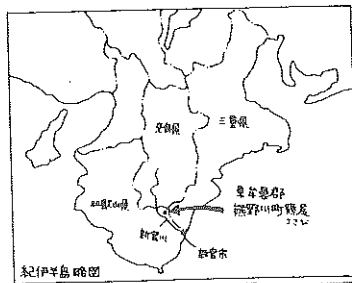
私は今、森林組合で山仕事をしています。造林班に所属し、木苗植から下刈、枝打、間伐、砂防工事などをやっています。始めてから約2年、習うより慣れよ、で、大分慣れてきたところです。

一般に、山で働く人の高齢化が進み、ほとんどが六十代で五十代は少なく、四十代以下となると数える程しかいないのです。私が働いている森林組合には私のように山での暮らし、田舎での暮らしを求めて移り住んできた三十代、四十代の若手が六人働いています。

山で働く想いはそれぞれですが、山や樹が好きという点では共通しているようです。

皆、米や野菜を作り無農薬有機栽培で自給自足を目指しています。採採は、農業や木工で自活したいと考えている者もいます。

現在、世界的に森林が伐採され地球の砂漠化が進んでいます。日本がいっまでも外国から木材を輸入することは出来ないで



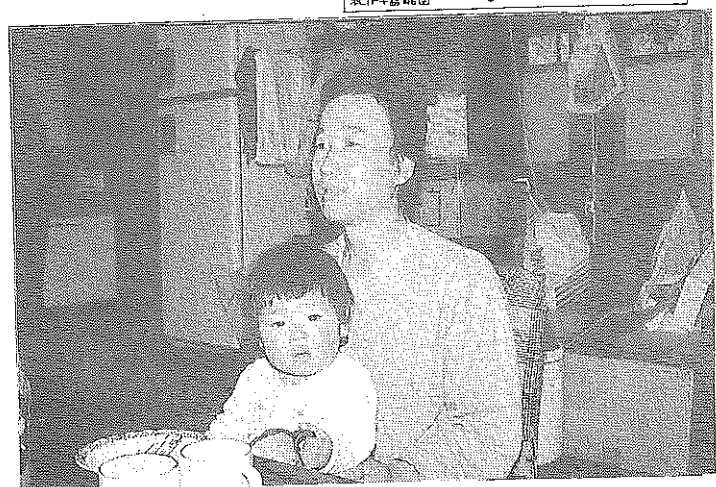
しように。国内の

森林を育てて自給しなければならなくなるでしょう。

そうしていくことは、ひいては地球の砂漠化を防ぐことに繋がっていくと思います。

過疎化の進む山村に、若い人々が移住し森を育て山を守り、地球に豊かな緑を保つために働く、自然と調和した心豊かな暮らしに立ち返る、そんな時代がそこまで来ているような気がします。

日本の森や山だけのことではありません。砂漠化している世界のあちこちで豊かな緑を復原するに



▲ 息子の明くんとくろうぐ中村さん。



▶ 村の人たちといっしょにもちつきをする 中村天婦。 村に入るということは口で言うよりずっと大変なことだ。 村の人たちとのコミュニケーションが一番が大切だよ。

めに働く。 将来そんな仕事をしたい、そういう仲間が一人でも増えることを想いながら、今、熊野の山で暮らしています。

(おわり)

INFORMATION

水俣 絵ハガキ

● 6枚すべて違う色の紙にシルクスクリーンを印刷されています。ウチンでも取付保っておりますので……

水俣病は
終っていない。
水俣木版画集
シルクスクリーン 6枚セット
500円



「みんな
ありまっせー」

4「母と子」6枚の1つです。

☆この絵葉書は、滋賀県近江八幡市立八幡小学校5年2組の生徒達が、1989年3月に製作した版画集から作ったものです。
☆絵葉書の収益金は、チッソ水俣病関西訴訟支援のために使わせていただきます。

発売元：チッソ水俣病関西訴訟を支える会 TEL 06-328-4550、FAX 06-328-0937
〒533 大阪市東淀川区豊新 5-12-40、第一和町マンション206号 デイゴ気付

サラワクパネル 19枚セット 30cm x 20cm 約 (送料別) 送料別 送料別 送料別

催しなどに使って下さい。 伐採による破壊、先住民の暮らしなどが入った写真パネルです。(説明入り・カラー)

スライド 19枚セット (50枚カラー・ジャンクルの王様) (送料別)

各1500円(送料別)

「サラワク・ウマバラン村の暮らし」(50枚・カラー)

※音楽を「けて見るには必要ありません。

ウータンに届いたお便り

THANK YOU!

※大抵おきくうてごめんばい。現状の中からもご紹介いたします。



●早速、パンフ送って下さってありがとうございます。素晴らしい手作り
の冊子を見て、運動にかける情熱が充分伝わってきました。
内容も会の動きが丁寧に具体的に紹介されているので理解し
易く助かります。私も何らかの形で一緒に出来たらうと、つ
い思ってしまった。

(大阪吹田市・永田博子)

●「ウータン」を送っていただき、ほんとうにありがとうございます。いま
した。熱帯林問題について、全国的に活動している、しかも方
がたたくさんいることを知り、はげまされた感じがです。
新年を迎え、心新たに自然を環境破壊から守るための、微力なが
ら頑張つてやっつけていこうと思つています。桐生の梅田町にゴ
ルフ場の建設問題があり、反対運動の中でままれに鳴神通信を
お送りいたします。

(群馬県桐生市・鏑木理子)

熱帯林の問題を考える市民の会

●大阪へ行くまでにこちらも新しいメンバーも少しはふえるよう
な気がします。今年も目標は大阪でのキャンペナー合議を
成功させることです。

(静岡市・望月敏子)

※全国熱帯林保護者会議のこと。

●昨年中は何かとお世話になりました。資料は大変参考
になります。私は野鳥の会徳島支部の保護部長と、パン
ダクラブ徳島の事務局長、他、グリーンピースなどでも活動し
ているため、熱帯林保護活動7年に数回です。でも前向
きにがんばりますのでよろしくお願ひします。

(徳島市・山内美登利)

●日頃の活躍ぶり「ウータン」より拝見して感服。なかなか
集会などに参加できず、去年はおしいことをしました。今
後とも期待しています。また連絡下さい。

(大阪府高槻市・西和孝)

●暮れに届いた「ウータン」も良かったですよ。こうなるとは
後もどりでまなないな——とか思つて今年も署名を集めるこ
とにしました。ス、アドバイスをいただければ幸いです。

(長野県・加賀瀬みどり)

●Power to the people! NPO ネットワーカーとして
より自由に、けんきょに歩みます。ごぞよろしうに。

(大阪豊中市・福田直子)

●「ウータン」ありがとうございました。8月にメキシコのオ
マール少年を日本に呼ぼうと考えています。その時は「
助けをもらって、ちやぶちやぶ」など、虫のいいことを考えて
います。今年もよろしく。

(長野県・福永一美)

奈良熱帯林保護ネットワーク

(代表) 前 圭一 ●奈良市七条西町1-15-1 Tel. 0742-46-8409

N
ETWORKS
5

■結成の経過

奈良熱帯林保護ネットワークの結成は、1990年4月に、オーストラリアの熱帯林保護活動家のアンチャライトさんを迎えての「熱帯林を考える集い」がきっかけとなりました。この集いは、奈良県勤労者山岳連盟自然保護委員会が、地球規模で環境問題について考えように行ったものでした。

この集いで結成をよびかけて、同年の7月14日に結成の集いもたれました。参加者は20名で、かなりは奈良県勤労者山岳連盟のメンバーでしめられることになりました。

■自治体への申し入れ

結成後は、10月に講演会をひらいたり、11月には、サラワクの先住民3名とオーストラリアの活動家2名、それにサラワクキャンペーン委員会の松江さんを迎えて集いを開いたりしてきました。また、自治体に対しては、結成後の8月に奈良県・市に日本で最初の熱帯林保護の申し入れをしたこととなりますが、91年も6月に大和郡山市長に熱帯木材不使用宣言を求めたり、10月には、奈良市に対して建設が予定されている市民ホールの建設にあたってコンクリートパネルに熱帯材を使用しないように申し入れてきました。12月には、熱帯木材不使用を求める要望署名1073名分を奈良県に提出しました。

このように自治体への申し入れ活動を行ってきましたが、まだ成果をあげるにいたっていません。

■会の現状

奈良のネットワークは組織としての体裁を十分なしていないのが現状です。運営の会合も定期的にはもてず、会報もまだ2回発行したきりの状態です。これは、代表がゴルフ場計画反対運動や山岳自然保護の中心的メンバーとして忙しすぎる面があるためです。また、会員が特定組織に所属している人にかたよっているために、独自の組織として機能しにくいという面もあります。

それでも少しずつ熱心な人が出て来ています。今年は、奈良県の自治体でも熱帯木材不使用が実現するよう作戦を練りつつあります。



(ウーダンの集いにいられた田所の前圭一さん)

▽91.12.22 読者(奈良版)

熱帯材使わないで 1073人署名で県に要望

奈良熱帯林保護ネットワーク(前圭一代表)は、20日、マレーシア・サラワクの急激な熱帯林伐採で先住民族の生活が困難になっているため、「発注する公的事業での熱帯材不使用」などを求める五項目の要望書を、千七百三十人の署名とともに県に提出した。

要望書によると、熱帯材を使わない住宅のモデル事業を行う▽代替材導入のため、庁内に検討委員会をつくる▽一般市民への保護教育の普及—などを求めている。

HUIJIAN
ART
GALLERY
フータン・アート・ギャラリー

2



(1911年 437.7x72.729x606)

HEART OF TRIP
諸戸美和子 MIWAKO MOROTO

「最初はアフリカのジャングルをイメージして描いていたのですが、ネールへ何度も足を運んだこともあり、どうやらアジアのジャングルに近づいたようです。」 諸戸美和子・イラストレーター 豊中市在住、もちろん OSAKA!

HUTAN ACTION SCHEDULE

MAY 5

10日

◎全国熱帯林保護者会議 第2回

大阪十三、淀川公館において

申し込みは函留まで(06)2321-0515

9日

◎熱帯林を守れンシンポジウム(仮)
大阪府立労働会館 14時開演(予定)

(06)2321-5205(0505)で一般下して。

参加の方は一週間前までに、西園まで。
自然と親しみたい人、一度炭を焼いて
みたい人、林業問題に関心のある人、気
持いい汗を流したい人、是非ご参加下さ
い。尚、諸用意がありますので、ご
参加の方は一週間前までに、西園まで。

MARCH 3 29



◎ウータン炭焼きハイク

行先 大阪南河内・河内町栢尾

期 9:20 AM 近鉄富田林駅集合

←(9:50 AMのバスに乗ります)

4:00 PM 現地解散

◎¥500 (炭保険・豚汁付)

◎格物 作業できる服装・軍手・ながぐつ(汚可)
弁当、お水(豚汁用)、雨具、ぼうしなど



◎おKIN!。カンパと会費

柴田昭子	石田文幸	松永敬子
伊東万子	藤巻正己	永田博子
奥田孝史	野見山健一	エドワード・J 4.レドレン
小松みち	光永浩子	福田賢三郎
中尾卓司	香本明世	大西裕子
松尾光雄	鎌木里子	向井牛晃
千葉恒久	古橋雅夫	倉友かつみ
薦田 哲	伊藤真吾	小吹岳志
吉田健司	中西真佐子	
福田 敦	荒川純太郎	

※皆さんにもありかたうございました。これからますます

(敬称略) (2月発表)

STAFF 募集

5月の「シンポジウム」と「全日会議」(上記)

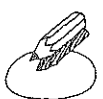
まっおて!

あ 知 ら せ

熱帯林や森に興味のある方、どうぞ
手伝って下さいませんか?

ウータンは、今5月のシンポと全日会議
を成行させようと、京都、奈良、神戸の
仲間たちと準備をしています。ご協力を

HUTAN

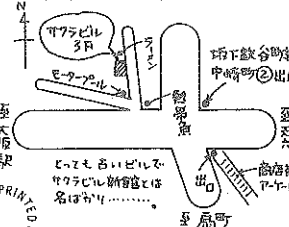


作業の遅いので定評のある編集
部。「いつごろ発行の予定? 運み
具合は?」の声に、「わからんわ。
大体この辺かな。」と答えつつや
ってあります。早くに原稿をい
ただいていい皆さん、すまへん!
環境保護運動も先端部では大き
く盛り上っている現在でもその未
端である私たちの身近な生活の場
での見直しは以前として「おっ、こ
んなー。」と思えます。
街角に出される大量のゴミを見
かけるといつも考えしてしまう今日
この頃です。

(N)

ウータン定
例会は第2、
第4火曜日午
後7時より
自然連合事務
所にて行っ
てあります。
Tel. 06-372-1561
372-1561

ウータン事務局内



PRINTED